

認知症って何？

脳は、私たちのほとんどあらゆる活動をコントロールしている司令塔です。それがうまく働かなければ、精神活動も身体活動もスムーズに運ばなくなります。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態を指します。

どうしてオレンジ色？

認知症のシンボルカラーはオレンジです。オレンジ色が認知症に対する理解と支援を象徴しているのはなぜでしょうか？この背景には江戸時代の陶工、酒井田柿右衛門が夕日に映える柿のような赤絵磁器を創り、世界で人気を博したことがありました。オレンジ色には「世界で認められるように」という願いが込められているのです。

講話① 平野敬之さん(弘前愛成会病院 認知症専門医)

専門医が教える！実はこれも認知症のサイン

認知症には物忘れ以外にもサインになる症状がいくつかあります。反対に、認知症に似ているけど違う症状もあります。今回はそれらのポイントや受診のタイミング、対応の考え方をわかりやすくご説明します。

講話② 加福雅行さん(認知症の人と家族の会青森県支部 副代表・薬剤師)

認知症のお薬についてー作用と安全性ー

1970年代に、認知症を発症された方の脳内では記憶に関与する神経伝達物質であるアセチルコリンが減少していることが提唱され、日本では1999年に塩酸ドネペジルが臨床の場に登場しました。25年後の現在、新たな薬のシカネマブ・ドナネマブが認知症治療の扉を開こうとしています。

講話③ 葛西愛子さん(弘前大学医学部附属病院 認知症認定看護師)

「つながり」を大切にする認知症看護のコツ～「その人らしさ」を支えるために～

認知症の人と家族が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように、看護師としての視点と関わりのポイントを写真などで見ていただき、今日からできるケアの方法を紹介します。

企画 大庭輝さん(弘前大学医学部心理支援科学科 公認心理師)

認知症の人の心の世界を体験してみよう！！

心理学実験で用いられる課題を使って、認知症の中核症状である「認知機能」がどのように使われているか体験してみましょう。

